

指導の形態	自立活動「構音の指導」 ～「サ」行の発音指導のポイント～	障がい種	言語障がい
-------	---------------------------------	------	-------

授業の概要やよさ

- ・ストロー法を取り入れ、舌の感覚と息の出し方でS音を出すコツをつかませる。
- ・舌の運動や口の体操に加えて、最後に自由会話の時間も確保することで、楽しく通級できるようにした。

児童生徒の様子

- 小学校1年男子A
- ・S音(サ・ス・セ・ソ)がK音(カ・ク・ケ・コ)に置換している。
- ・上手になりたいという気持ちがとても強いため、練習に対して意欲的である。
- ・単音では改善されつつあるが、前後の音に影響されて誤って発音することが多い。



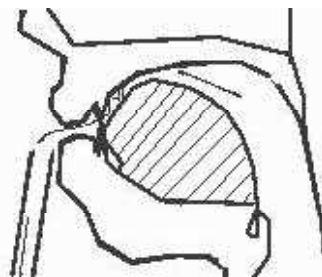
目標

- 「サ」行の構音障がいの矯正
- ・S音とK音の置換による発音の誤りを改善する。
- ・発音器官の運動機能を高めるとともに、正しい構音方法が分かる。

支援のポイント

○全体的な工夫

- ・ストロー法により、S音の出し方を練習し、うまくなってきたら、ストローを静かに引き抜いていく。
- ・まずは、ストローを使ったス音から練習し、ス音がうまくなった後で発音しやすい順番に行っていく。
(ス→ソ→サ→セの順)
- ・モデリングのために、教師と並んで鏡の前で行う。



○学習活動の工夫

1. 舌の運動

舌の上下左右、上唇なめ、下唇なめ、舌まわし、舌打ち、舌ならし

2. お口の体操

50音の口形表を読む、早口言葉

3. ストローを使って

- ①ストローを舌先と上歯茎でくわえて、ストローの穴だけから息を出す。
※手のひらを当てることで、風が前から出ていることを確認させる。
- ②うまくなったら、徐々にストローを抜いて同様に行う。
- ③「スーウー」という具合に、息を出した後に後続母音を誘導する。
- ④だんだん速くして、「スウー」「ス」を誘導する。
※舌を引っ込めてしまうと「ク」になりやすいので注意する。

4. 絵カードを読む

語頭→語尾→語中の順に扱う。(スキー、バス、ポスト等)

5. 文を読んでみよう

すきなさしみをスーパーのそばのお店で3300円でおかあさんが買ったよ。

6. お話ししよう

「先生の名前」「マラソン大会」「給食」等、テーマを決める。